

3. アザミ食葉性昆虫の個体群動態： 特に資源利用様式と種間競争について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47813

- 山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1992. 芦生演習林産樹木の実生形態 1. アケビ科, ウルシ科, ミズキ科, エゴノキ科, ハイノキ科, クマツヅラ科. 京都大学農学部附属演習林集報 23:47-68.
- 山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1993. 芦生演習林産樹木の実生形態 2. クルミ科, カバノキ科, ブナ科, クワ科. 京都大学農学部附属演習林集報 25:52-72.
- 山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1994. 芦生演習林産樹木の実生形態 3. ビャクダン科, マタタビ科, ツバキ科, マンサク科, トウダイグサ科, ユズリハ科, ミカン科, モクレン科, マツブサ科. 京都大学農学部附属演習林集報 26:30-53.
- 山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1995 a. 芦生演習林産樹木の実生形態 4. モチノキ科, ニシキギ科. 植物地理・分類研究 42:111-124.
- 山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1995 b. 芦生演習林産樹木の実生形態 5. ブドウ科, アワブキ科, ウリノキ科. 植物地理・分類研究 43:25-36.
- 山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1996. 芦生演習林産樹木の実生形態 6. クスノキ科, クロタキカズラ科, クロウメモドキ科. 植物地理・分類研究 44:25-42.
- 梅林正芳. 1996. イボタノキの秋発芽について. 植物地理・分類研究 44:90.
- 山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1997. 芦生演習林産樹木の実生形態 7. ヤマグルマ科, フサザクラ科, カツラ科, トチノキ科, イイギリ科, キブシ科. 植物地理・分類研究 45:13-21. (梅林正芳 金沢大学理学部生物学科)

3 アザミ食葉性昆虫の個体群動態—特に資源利用様式と種間競争について

金沢市郊外の湯湧の溪流沿いに生えるハクサンアザミとカガノアザミの葉は、食葉性甲虫により激しく食害される。ヤマトアザミテントウアオカメノコハムシ、ルリクビホソハムシなどの個体数密度が高く、出現時期や資源利用様式は大きく重複しているため、これら甲虫間に種間競争が起きている可能性もある。本研究のため植物園を以下のように利用した。

- (1) 圃場に各地産のアザミを栽培した。
- (2) 小形網室内に栽培したハクサンアザミに対するヤマトアザミテントウの雌成虫の産卵行動の観察。

これらの研究の一部は、第42回日本応用動物昆虫学会（小路・海原・中村，1998年3月 名古屋），平成10年度金沢大学自然科学研究科修士論文（海原），金沢大学理学部生物学科卒業論文として発表した。（小路晋作・海原 要・森口智愛・中村浩二 金沢大学理学部生物学科）

4 キタゴヨウ集団におけるハイマツ mtDNA の細胞質捕獲

高山性のハイマツ (*Pinus pumila*) と、山地性のキタゴヨウ (*Pinus parviflora* var. *pentaphylla*) は、通常、垂直分布は隔離されているが、隣接して生育しているような山系においては交雑帯を形成し、雑種を生じることが知られている。また、mtDNA の遺伝マーカーを使った両種の交雑帯での解析の結果、ハイマツからキタゴヨウへ、という一方向性の遺伝子浸透が起きていることが明らかとなっている (Watano et al. 1996)。昨年度の卒業研究までにおいて、これまで日本各地でのキタゴヨウ集団の mtDNA を調べた結果、ハイマツ型 mtDNA のキタゴヨウ集団への浸透が分布下限にまで達するような大規模な遺伝子浸透が、特に東北部においてみら